

＜ 外国語 ＞ 科 学習シラバス

科 目	英語コミュニケーションⅡ	学年・類型	2年生(紙のま ちづくり)	単位数	4 単位	教科書	All Aboard! English CommunicationⅡ (東京書籍)	
学習の到達目標		日常的・社会的な話題について、必要な情報を理解し、概要や要点を目的に応じて捉えるとともに、基本的な語句や文を用いて、情報や考え等を論理性に注意して伝えることができる能力を養う。						
評価の 観 点	A 知識・技能		B 思考・判断・表現		C 主体的に学習に取り組む態度			
評 価 の 内 容	英語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身につけているとともに、その使い方や使う場面などを正しく認識し、適切に使うことができる技能を身につけている。		効果的な場面で、学んだ情報を整理して、取捨選択しながら相手が理解しやすいように伝えている。		コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとしている。			
評 価 の 方 法	・学習活動における発言や態度 ・単元別復習テスト ・ノート、学習プリント ・定期考査		・学習活動中における発言や態度 ・音読に対する意欲や態度 ・ノート、プリント ・定期考査		・学習活動への参加姿勢や態度 ・授業中の学習態度や学習意欲 ・ノート、プリント ・長期休業中課題			
学期	月	単元名・小単元名	学 習 の 指 導 内 容			評 価 の 観 点		
			A	B	C			
1 学 期	4	Pre-Lesson My Plans for This year	・今年やってみたいことについて、クラスメートと対話する。 ・to 不定詞や助動詞willを用いた文の形・意味・用法を理解する。			○	○	○
	5	Lesson1 A colorful Island	・イタリアのブラーノ島の特色について読み、その島の特徴を学習する。 ・関係代名詞whatを用いた文の形・意味・用法を理解する。			○	○	○
	6	Lesson2 With the Beatles	・ラジオのリスナーとDJの対話を読み、世代を超えて人気のあるバンドについて考える。 ・比較表現more, the mostを用いた文の形・意味・用法を理解する。			○	○	○
		Lesson3 Wild Men	・ヨーロッパの国々の祭りに登場する人物について読み、人間社会と自然について考える。 ・it(it is … (for -) to ～やit is …that ～)を用いた文の形・意味・用法を理解する。			○	○	○
	7							
2 学 期	8・9	Lesson4 Little Hero	・世界最小の鳥であるハチドリ物語を読み、不断の努力と不屈の心について考える。 ・間接疑問文を用いた文の形・意味・用法を理解する。			○	○	○
	10	Lesson5 Special Makeup in Kabuki	・日本の伝統文化である歌舞伎と隈取について学習する。 ・to不定詞を用いた文の形・意味・用法を理解する。			○	○	○
		Reading1 Mujina	・江戸時代を舞台した怪談を読み、情景や登場人物の心情を読み取る。			○		
	11	Lesson6 Seeds for Future Generations	・海外の高校生に向けた伝統野菜についての発表を読み、伝統の継続について考える。 ・動詞の目的語になるif節を用いた文の形・意味・用法を理解する。			○	○	○
	12	Lesson7 Over the Wall	・世界中で壁画を描く活動についての話を読み、世界の人々と交流する方法について学習する。 ・関係副詞where, whenを用いた文の形・意味・用法を理解する。			○	○	○
3 学 期	1	Lesson8 Inspiration from Nature	・生物模倣についての話を読み、自然界のデザインをヒントに開発された製品について学習する。 ・知覚動詞を用いた文の形・意味・用法を理解する。			○	○	○
	2	Lesson9 The Bitter Truth behind Chocolate	・チョコレートを巡る現実を取り上げた雑誌記事を通して、カカオ農園の実態と児童労働及びその解決策について学習する。 ・使役動詞を用いた文の形・意味・用法を理解する。			○	○	○
	3	Lesson10 Fighting Angel	・医療と看護の発展に一生を捧げたナイチンゲールの生涯について学習する。 ・分詞構文を用いた文の形・意味・用法を理解する。			○	○	○
学習のポイント		・授業はもちろん家庭学習においても辞書を繰り返し使用させる。 ・間違ったところは正しく訂正し、なぜ間違ったのかを考えさせる。 ・しっかりと声を出して音読し、意味を意識しながら繰り返し練習する。						